

## 答 辞

本日はお忙しい中、学長先生を始め、諸先生方、並びにご来賓の皆様にご臨席賜り、このような盛大な修了式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、学位記の授与にあたり、皆様方から温かいお祝いの言葉を頂戴しましたこと、修了生を代表して厚く御礼申し上げます。

私達一同は、希望と志を抱いて連合農学研究科に入学し、指導教員をはじめとする多くの先生方のご指導を受けながら、それぞれが掲げた研究課題に直向きに取り組んでまいりました。しかし、自らが望み進んできた道にも関わらず、幾度となく方向性を見失い、迷いと闘う日々を過ごしたときもありました。そのようなとき、先生方は進むべき道を差し示し、打開の一步を踏み出す力を与えてくださいました。本日、ここに学位を取得することができましたのは、ひとえに多くの先生方のご指導、ご鞭撻の賜物です。また、在籍中、研究生活を支えてくださった事務局の皆様、研究室の仲間、友人、そして何より、家族の存在がなければ決してここまで到達することはできませんでした。ここに研究に携わっていただいたすべての方々に対し、心より感謝の意を表します。

近年、博士号取得者の就職難が深刻な社会問題となっています。私たちは、今日という晴れやかな節目の日を迎えた一方で、大きく過酷な研究者の道へ歩み出すことになりました。しかし、私たちは、東京農工大学大学院連合農学研究科を修了したことに誇りと自信を持ち、真の研究者として、それぞれの道へ新たな一步を踏み出す所存です。

現代世界では、食糧問題や環境問題など数々の問題が山積しており、農学系に対する期待がより一層高まってきています。21世紀は農学の時代です。私たちは、これから訪れるであろう活躍の好機に、私たちの知識、経験、技術を最大限に社会貢献に活用していく決意です。

最後になりましたが、東京農工大学大学院連合農学研究科のさらなる発展と、皆様方のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

平成 25 年 3 月 15 日

国立大学法人東京農工大学大学院

連合農学研究科代表

環境資源共生科学専攻

奥 田 圭